

**夢洲まちづくり構想（案）**  
～新たな国際観光拠点の形成に向けて～

**夢洲まちづくり構想検討会**  
**平成29年2月6日**



## はじめに

大阪府・大阪市で策定した「大阪の成長戦略」（2016年12月版）では、「日本の成長をけん引する東西二極の一極として世界で存在感を発揮する都市」をめざし、成長のための源泉の一つとして掲げた「内外の集客力強化」に向け「国際エンターテインメント都市の創出」等に取り組んでいくこととしています。

この実現にむけては、世界・日本国内から注目を集め、大阪のシンボルとなる新たな国際観光拠点の形成が必要と考えており、大阪ベイエリアに位置する夢洲は、その立地の最適地と考えられます。

2014年10月、夢洲での国際観光拠点の形成について検討するため、関西経済3団体、大阪府、大阪市は、「夢洲まちづくり構想検討会」を立ち上げ、2015年2月には、「夢洲まちづくり構想（案）～中間とりまとめ～」をとりまとめました。

さらにこの熟度を高めるために、大阪市では、2016年5月から、夢洲開発に参画意欲のある民間事業者を対象に「夢洲における国際観光拠点形成に向けたアイデア募集」を実施し、海外からの4件を含む12件の提案を受けています。

本構想は、国際観光拠点の形成に向けて夢洲のまちづくりのめざすべき方向性について、事務局である大阪市が「アイデア募集」での民間事業者からの提案も参考に作成した素案をもとに、「夢洲まちづくり構想検討会」において議論をおこない、「夢洲まちづくり構想（案）」としてとりまとめたものです。

折しも2016年12月には、いわゆるIR推進法（特定複合観光施設区域の整備の推進に関する法律）が施行され、また、現在、夢洲での「2025日本万国博覧会」の開催に向けた取り組みが進められているなど、今後、国際観光拠点の形成をめざす夢洲はさらに注目を集めることとなります。

この構想は、夢洲において世界に誇る魅力ある国際観光拠点の形成を公・民が協働して実現するための指針となるものです。この構想の策定を契機に、国内外のさらに多くの皆様が、夢洲のまちづくりに関心を持たれ、参画いただくことを期待します。

# 目 次

<b>01</b>	夢洲の概要.....	1
<b>02</b>	大阪の現況とめざすべき方向性.....	2
	1. 大阪を取り巻く状況.....	2
	2. 大阪のポテンシャル.....	4
	3. 大阪の課題.....	7
	4. 取り組みの方向性.....	9
<b>03</b>	夢洲の現況と位置づけ.....	10
	1. 臨海部のポテンシャル.....	10
	2. 臨海部の課題.....	13
	3. 夢洲のめざすべき姿.....	13
	4. 国際観光拠点形成の方向性.....	14
<b>04</b>	国際観光拠点「夢洲」のコンセプト.....	15
<b>05</b>	拠点形成のための都市機能.....	16
	【JAPAN ENTERTAINMENT】 大阪・関西・日本観光の要となる 独創性に富む国際的エンターテインメント拠点形成.....	16
	【BUSINESS MODEL SHOWCASE】 新しいビジネスにつながる技術やノウハウを世界第一級の MICE 拠点を中心にショーケース化し、国内外に発信.....	20
	【ACTIVE LIFE CREATION】 健康で生き活きとした生活をエンジョイできる 革新的な技術などの創出と体験.....	23
<b>06</b>	夢洲がつなぐネットワーク.....	25

<b>07</b>	<b>まちづくりの方針</b> .....	<b>28</b>
	【土地利用】 世界で存在感を発揮するまちづくり .....	28
	【都市基盤】 確かな技術に支えられたスマートなまちづくり.....	31
	【環境共生】 地球・自然環境共生とスマート技術の融合による 先進的で快適な環境形成.....	36
	【空間デザイン】 アーティスティックなデザイン、上質で快適な空間形成.....	39
<b>08</b>	<b>支えるしくみ</b> .....	<b>43</b>
	【安全・安心】 24時間ホスピタリティと安心感に包まれるまちづくり .....	43
	【運営・育成】 民が主役のまちづくり .....	45
<b>09</b>	<b>まちの滞在イメージ</b> .....	<b>47</b>
<b>10</b>	<b>まちづくりの効果</b> .....	<b>49</b>
<b>11</b>	<b>実現に向けて</b> .....	<b>51</b>
	1. 夢洲まちづくりの想定スケジュール .....	51
	2. 実現に向けて .....	51



## 01 夢洲の概要

- 夢洲は、大阪湾の中心にある大阪港に位置し、面積が約 390ha の広大な埋立地である。
- 夢洲の中央部北側は既に埋立がほぼ完了しており、引き続き中央部南側で段階的に埋立を進めていく。
- 東側は、高水準のコンテナ物流拠点として、既に供用している（夢洲コンテナターミナル）。
- 西側は、廃棄物埋立処分場であり、その一部に大規模太陽光発電（メガソーラー）が設置されている。



## 02 大阪の現況とめざすべき方向性

○大阪の成長に向け、世界があこがれる都市を創造し、世界中から人・モノ・投資を呼び込むための取り組みのひとつとして「観光」「集客」に着目する。

### 1. 大阪を取り巻く状況

- ・ 経済面：経済低迷、アジアの経済成長、輸出入貿易額は近年増加傾向
- ・ 社会面：少子高齢社会、アジア人の観光ブーム（旅行消費額多）、訪日外国人増加（ビザ緩和など）国際会議需要の増加
- ・ 環境面：ビッグイベント開催予定（世界規模のスポーツ大会） など

#### ① 経済：経済低迷

○域内総生産はリーマンショック以降減少

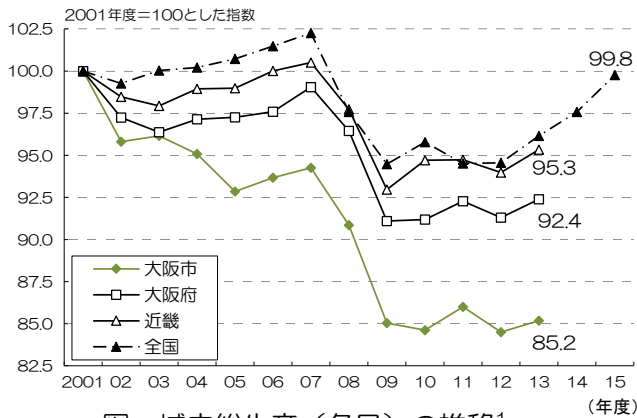


図 域内総生産（名目）の推移<sup>1</sup>

#### ② 経済：アジアの経済成長

○日本がほぼ横ばいに対し、中国、インドネシアのGDPは約2~3倍の伸び率

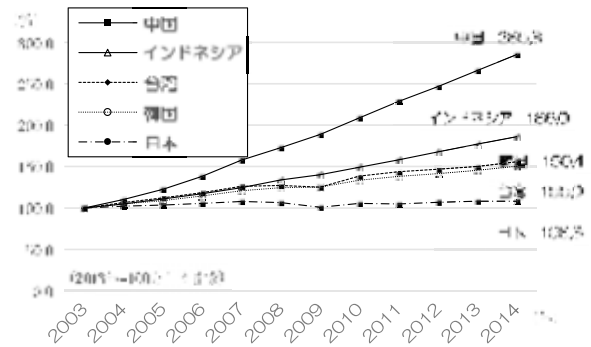


図 アジア各国・地域のGDP(実質)の推移<sup>2</sup>

#### ③ 経済：輸出入貿易額は近年増加傾向

○大阪市が全国に占める輸出入の貿易額の割合は、2000年以降増加傾向

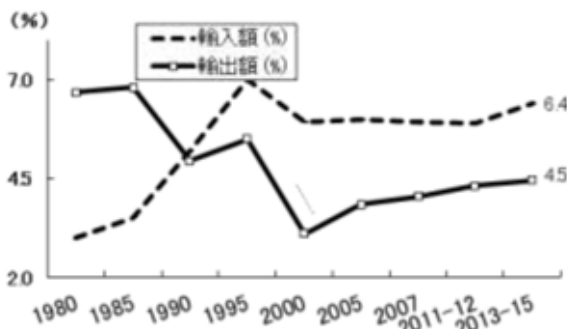


図 全国に占める輸出入額の割合<sup>3</sup>

#### ④ 社会：少子高齢社会

○大阪府全体で人口減少の中、65歳以上人口は増加

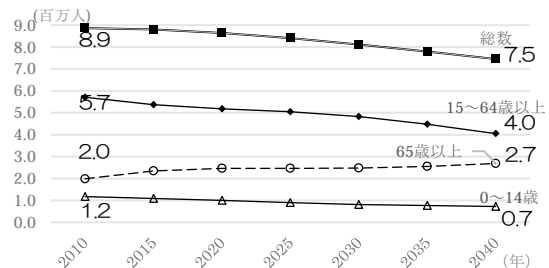


図 大阪府の人口推移<sup>4</sup>

<sup>1</sup> 出典：大阪市 大阪の経済 2017年版をもとに作成

<sup>2</sup> 出典：IMF（国際通貨基金）world economic outlook database をもとに作成

<sup>3</sup> 出典：大阪市 大阪の経済 2017年版をもとに作成

<sup>4</sup> 出典：国立社会保障・人口問題研究所 日本の地域別将来推計人口（平成25年3月推計）をもとに作成



⑤ 社会：アジア人の観光ブーム（旅行消費額多）、訪日外国人増加（ビザ緩和など）

- ビザ緩和等により近年は訪日來訪者数が急増。大阪はここ数年で3倍以上の伸び率となっており、東京を上回る。
- 近年ではLCC便数も増え、関西国際空港への旅客便数が増加。
- 買物消費額は全体平均に比べアジア諸国（中国、香港、台湾）が高い。

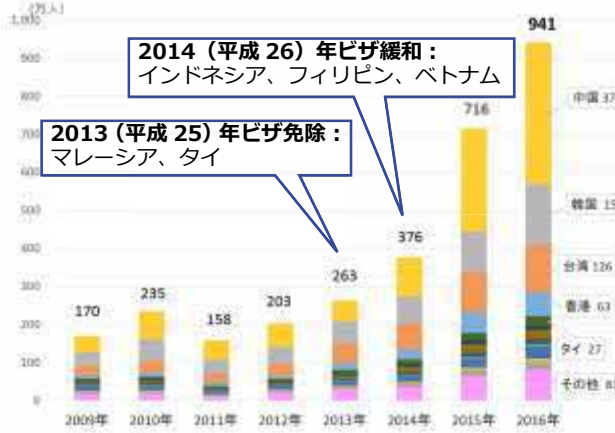


図 来阪外客数の推移<sup>5</sup>

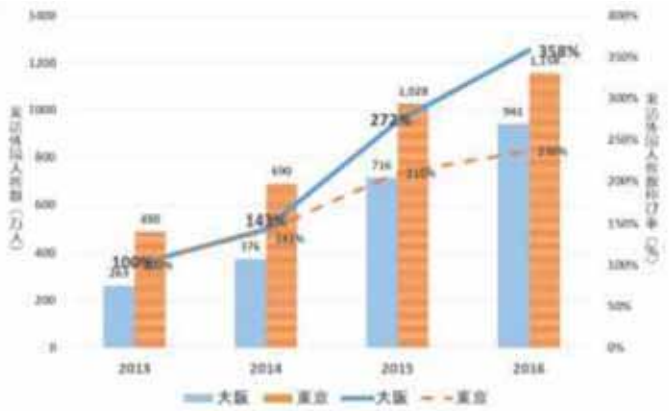


図 大阪と東京の来訪外国人の伸び率<sup>6</sup>

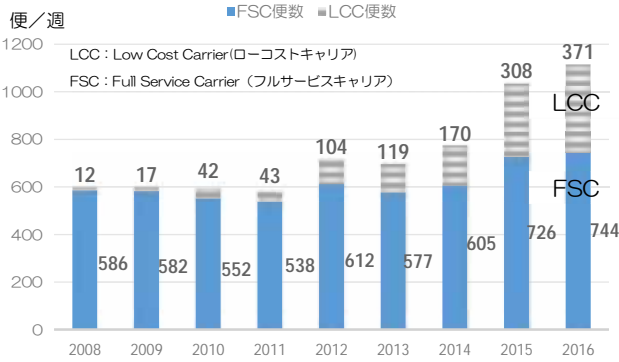


図 関西国際空港の国際線旅客便数<sup>7</sup>

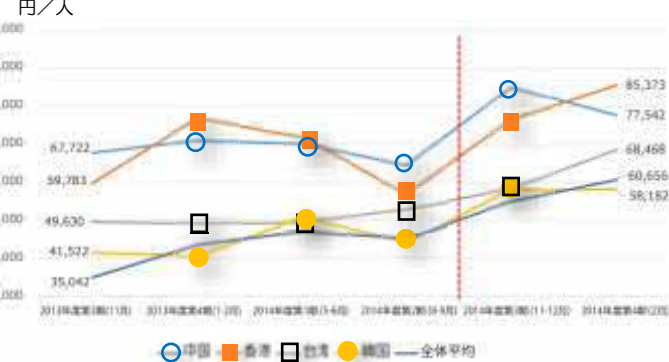


図 来阪外国人の買物消費単価<sup>8</sup>

⑥ 社会：国際会議需要の増加

- 2006年から2015年にかけて、開催件数はアジア地域で約3割増加。
- 都市別の国際会議開催件数ランキング(2015年)では大阪は国内4位（世界では115位）。

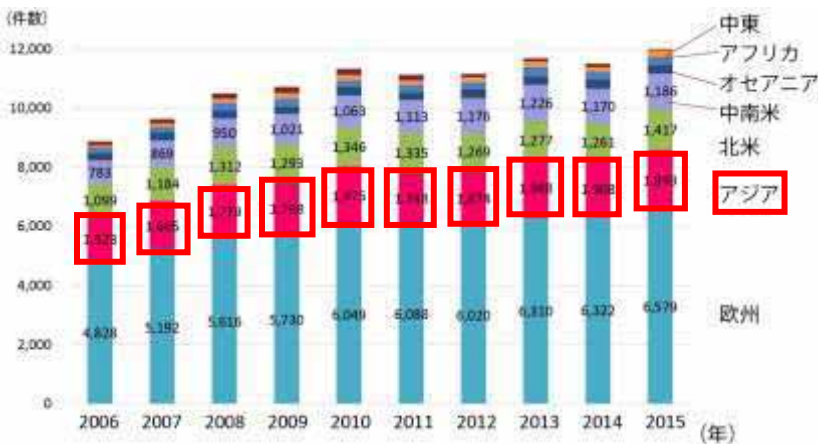


図 大陸別国際会議の開催件数 (2006~2015)<sup>9</sup>

都市名	2015年		
	順位	件数	世界順位
東京	1位	80	28位
京都	2位	45	57位
福岡	3位	30	85位
<b>大阪</b>	<b>4位</b>	<b>23</b>	<b>115位</b>
横浜	5位	22	117位
札幌	6位	18	139位
名古屋	7位	14	182位
神戸	8位	13	191位
沖縄	8位	13	191位
仙台	10位	9	254位
つくば	10位	9	254位
奈良	12位	8	276位
千葉	13位	7	301位
金沢	14位	6	335位
北九州	15位	5	373位

表 都市別国際会議の開催状況<sup>10</sup>

<sup>5</sup> 出典：大阪観光局 プレスリリース 2016年 来阪外客数をもとに作成  
<sup>6</sup> 出典：大阪観光局発表をもとに作成  
<sup>7</sup> 出典：関西国際空港 関西国際空港の国際定期便運航計画について（2016年夏期スケジュール）をもとに作成  
<sup>8</sup> 出典：大阪観光局 平成26年度関西国際空港外国人動向調査結果をもとに作成  
<sup>9</sup> 出典：ICCA (A Modern History of International Association Meetings 1963-2012)、ICCA Statistics Report(2013,2014,2015)をもとに日本政府観光局作成  
<sup>10</sup> 出典：ICCA Statistics Report(2014, 2015)をもとに日本政府観光局作成

## ⑦ 環境：ビッグイベント開催予定

- 2019年ラグビーワールドカップ日本大会、2020年東京オリンピック・パラリンピックなど、世界規模のスポーツ大会の開催が予定。
- 夢洲において、2025年の万博開催に向けて誘致活動を行っている。
- 歴史、文化、食など大阪・関西の魅力を国際社会に向かってアピールし、さらなる観光集客につなげる絶好の機会。

項目	内容
開催予定地	夢洲地区（大阪市此花区）
入場者想定規模	約 3,000 万人
全国への経済波及効果（見込み）	約 2.3 兆円 （その他、間接的な誘発効果 約 4.1 兆円）
会場建設費（見込み）	1,200～1,300 億円程度

年次	イベント
2019（平成31）年	ラグビーワールドカップ2019日本大会
2020（平成32）年	第32回オリンピック競技大会（2020/東京） 東京2020パラリンピック競技大会
2021（平成33）年	ワールドマスターズゲームズ関西2021

表 2025（平成37）年基本構想（府案）の概要<sup>11</sup>

表 イベントスケジュール

## 2. 大阪のポテンシャル

- ・経済面：ライフサイエンス・グリーンなどの幅広い産業集積
- ・社会面：豊富な観光資源、世界遺産・文化財の集積、大学・研究機関の集積
- ・環境面：国際港湾・国際空港との近接（利便性）、交通・物流インフラの充実 など

### ① 経済：ライフサイエンス・グリーンなどの幅広い産業集積

#### 社会：大学・研究機関の集積

- 関西各地で大学、世界有数の研究機関や、さまざまな業種・分野の企業、産業支援機関等が地理的に集積した“産業クラスター”が形成。
- 医療・バイオ、環境・エネルギー、ライフサイエンス・グリーンなどの分野において産官学連携等による取り組みが推進中。

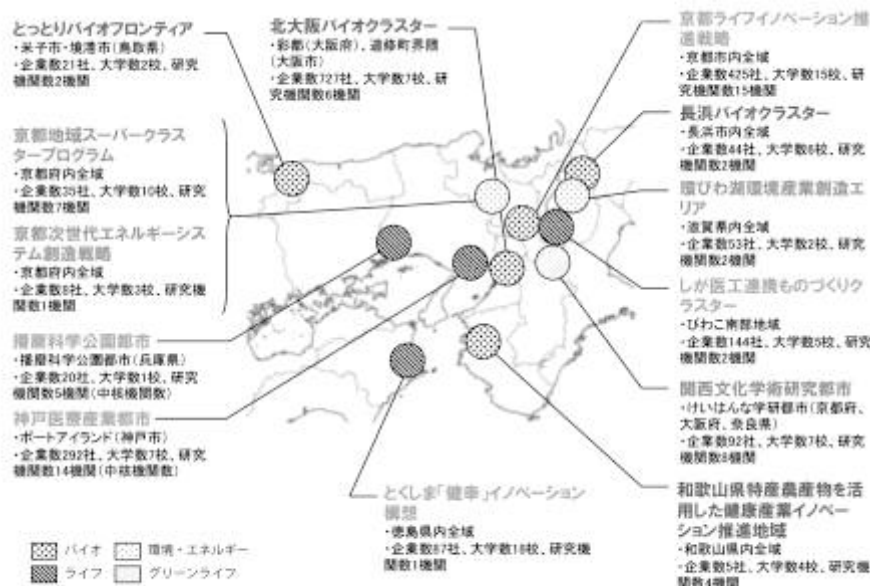


図 ライフサイエンス・グリーンなどの幅広い産業集積<sup>12</sup>

<sup>11</sup> 出典：大阪府 「2025 日本万国博覧会」基本構想（大阪府案）をもとに作成

<sup>12</sup> 出典：関西広域連合 広域産業振興局 関西広域産業ビジョン～日本の元気を先導する関西～ 2015 年改訂版 もとに作成

## ② 社会：豊富な観光資源、世界遺産・文化財の集積

○関西には世界遺産や歴史・文化遺産が多く、豊富な観光資源が集積している。

○大阪はその集積の中心に位置するとともに、発達した交通インフラにより容易にアクセスが可能。



図 大阪港から主要都市への所要時間<sup>13</sup>

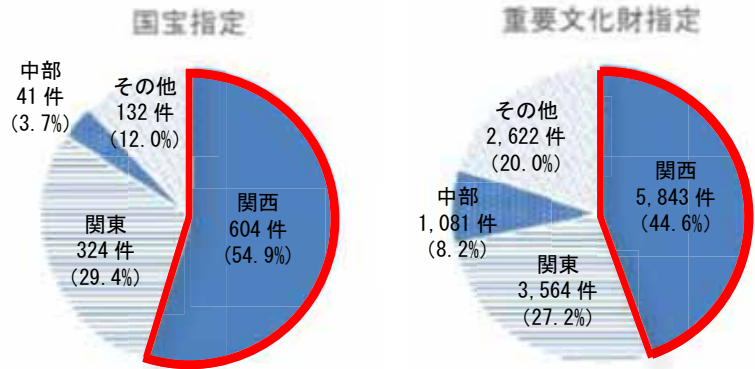


図 国宝及び重要文化財の地域別登録件数<sup>14</sup>

○テーマ性・ストーリー性を持った一連の魅力ある観光地をネットワーク化した広域観光周遊ルート形成計画（「美の伝説」や「せとうち・海の道」）を国土交通大臣が認定。

○近畿地方におけるクルーズ船（外航・内航）の寄港実績は、2014（平成26）年は145回（うち、外航クルーズ51回）、2015（平成27）年は141回（うち、外航クルーズ65回）<sup>15</sup>で外航クルーズについては前年を上回っている。



図 広域観光周遊ルート<sup>16</sup>

<sup>13</sup> 出典：大阪市港湾局 port of Osaka 2015/2016

<sup>14</sup> 出典：文化庁 文化財指定等の件数（2017.1.1時点）をもとに作成

<sup>15</sup> 出典：国土交通省港湾局産業港湾課ヒアリング結果より作成

<sup>16</sup> 出典：広域観光・文化振興局 広域観光周遊ルート形成促進事業における関西のルート形成計画（平成27年5月28日）をもとに作成

③ 環境：国際港湾・国際空港との近接（利便性）、交通・物流インフラの充実

- 都心部から関西国際空港や新大阪などの広域交通拠点へのアクセス改善等、広域鉄道ネットワークの充実・強化に向けた取り組みを推進中。
- 大阪・関西の成長に資する国土軸や大都市圏環状道路の強化、ベイエリア・関空・国土軸・防災拠点などへのアクセス強化、府県間の連携強化に向けた道路ネットワークの強化に向けた取り組みを推進中。

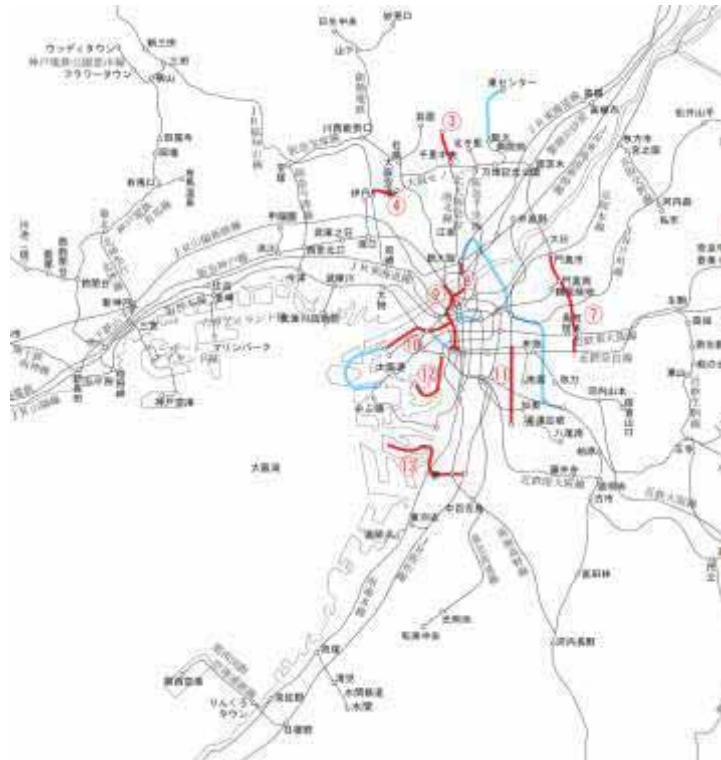


図 関西鉄道ネットワーク<sup>17</sup>



図 関西高速道路ネットワーク<sup>18</sup>

<sup>17</sup> 出典：近畿地方交通審議会 答申第8号

<sup>18</sup> 出典：関西高速道路ネットワーク推進協議会

### 3. 大阪の課題

- ・ 経済面：東京に比べ低い一人当たり GDP、全国平均を上回る失業率、法人税収の低迷
- ・ 社会面：インバウンド増加をビジネスにつなげるしくみづくり、大規模 MICE 開催に対応可能な施設の必要性
- ・ 環境面：富裕層向け宿泊施設の必要性 など

#### ① 経済：東京に比べ低い一人当たり GDP

○一人当たり名目 GDP は、大阪は東京の 6 割程度

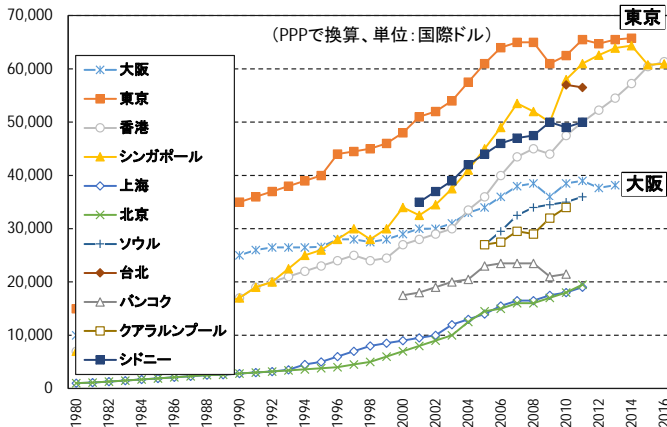


図 都市別一人当たり名目 GDP<sup>19</sup>

#### ② 経済：全国平均を上回る失業率

○全国平均 3.4%に対し、大阪府全域では 4.2% (いずれも 2015 (平成 27) 年値)

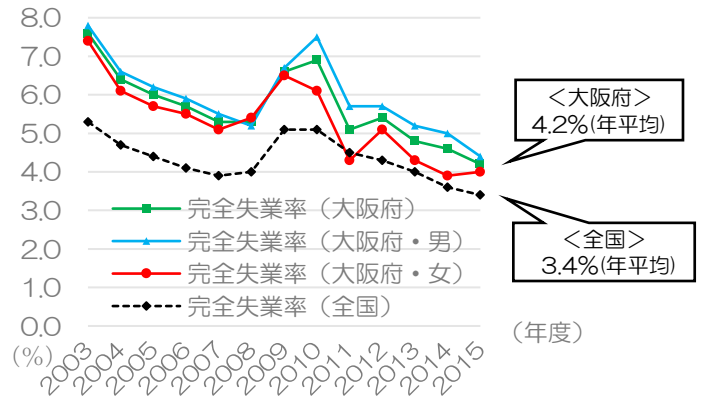


図 完全失業者数・割合<sup>20</sup>

#### ③ 経済：法人税収の低迷

○市税収入の直近 20 年間の状況を見ると、2008 (平成 20) 年秋のリーマンショックにより、市税収入全体および法人市民税が落ち込んだが、その後は、ほぼ横ばいで推移している。

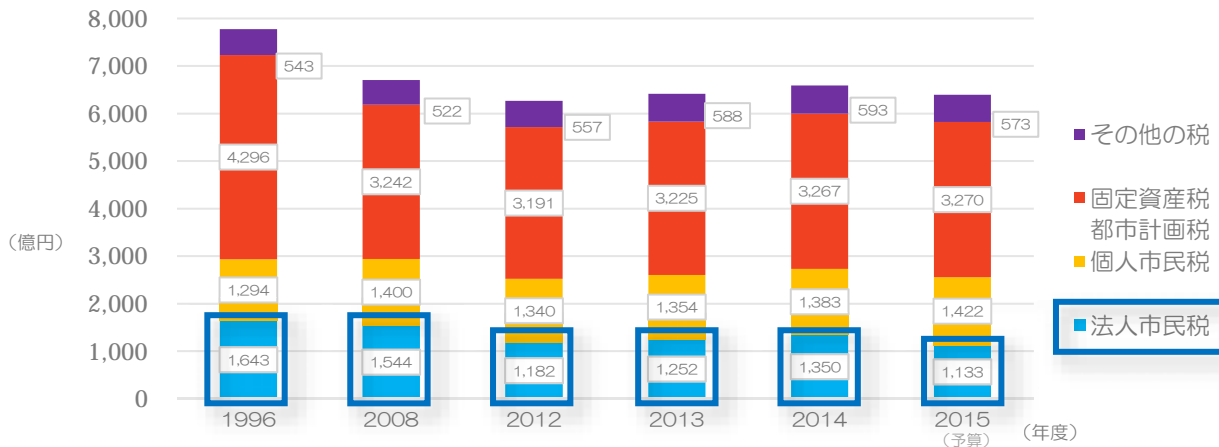


図 市税収入の推移<sup>21</sup>

#### ④ 社会：インバウンド増加をビジネスにつなげるしくみづくり

○インバウンド増加による消費拡大により県内総生産 (GRP) が増加し、その結果、大阪全体の経済成長を実現させることができる。

○今後インバウンドが増加することが想定される中、様々なポテンシャルを有する大阪でインバウンドを受け入れるしくみを整える必要がある。

<sup>19</sup> 出典：大阪府商工労働部 アジア主要都市と大阪の都市間競争力比較～企業立地の観点から(基礎調査)～(平成 26 年 3 月) をもとに 2012 年以降のデータを追加

<sup>20</sup> 出典：大阪府・大阪市 データでみる「大阪の成長戦略」平成 28 年

<sup>21</sup> 出典：大阪市「大阪市予算の概要と財政の現状」について(平成 28 年 4 月)をもとに作成

### ⑤ 社会：大規模 MICE 開催に対応可能な施設の必要性

○アジア各都市や国内他都市では MICE 機能強化の取り組みが行われている。

○一定規模の展示施設と会議場を併設し、ホテル、飲食・物販施設、エンターテインメント施設などが徒歩圏内に立地したオールインワンの MICE 施設が必要である。

エリア	施設名	開業年	最大規模の 会議場 収容人数	展示面積	主要施設
大阪	大阪府立国際会議場	2000年	2,800名	2,600㎡	会議場・展示場・ホール
	大阪国際交流センター	1987年	1,000名	165㎡	会議場・ホール・ギャラリー・ホテル
	コングレ コンベンションセンター	2013年	1,800名	1,700㎡	会議場・ホテル・商業施設
	インテックス大阪	1985年	300名	70,000㎡	会議場・展示場
	ATCホール	1994年	150名	5,600㎡	会議場・展示場・商業施設
	マイドームおおさか	1987年	150名	4,800㎡	会議場・展示場・ギャラリー・ホテル
東京	東京国際フォーラム	1997年	5,000名	5,000㎡	会議場・展示場・ホール・ギャラリー ・ラウンジ
	東京ビッグサイト	1996年	1,000名	81,000㎡	会議場・展示場
横浜	パシフィコ横浜	1991年	5,000名	20,000㎡	会議場・展示場・ホール・ホテル
千葉	幕張メッセ	1989年	1,700名	75,000㎡	会議場・展示場
シンガ ポール	シンガポールエキスポ	1999年	8,000名	100,000㎡	会議場・展示場・ホール
	サンテックシンガポール	1995年	12,000名	23,000㎡	会議場・展示場・ホール・商業施設
	マリーナバイサンズ	2010年	11,000名	39,000㎡	会議場・展示場・ホール・ホテル ・カジノ・ショッピングモール・美術館
ソウル	COEX	1979年	7,000名	36,000㎡	会議場・展示場・ホール・ホテル ・カジノ・ショッピングモール
	KINTEX	2005年	6,000名	100,000㎡	会議場・展示場・ホール

表 大阪および国内外の主な会議場、展示施設<sup>22</sup>

### ⑥ 環境：富裕層向け宿泊施設の必要性

○大阪市には、比較的low価格で客室数の少ないビジネスホテルが多く、次いで高級ホテルが立地している。超高級ホテルや超高級旅館が少なく富裕層向けの宿泊施設が不足している状態。

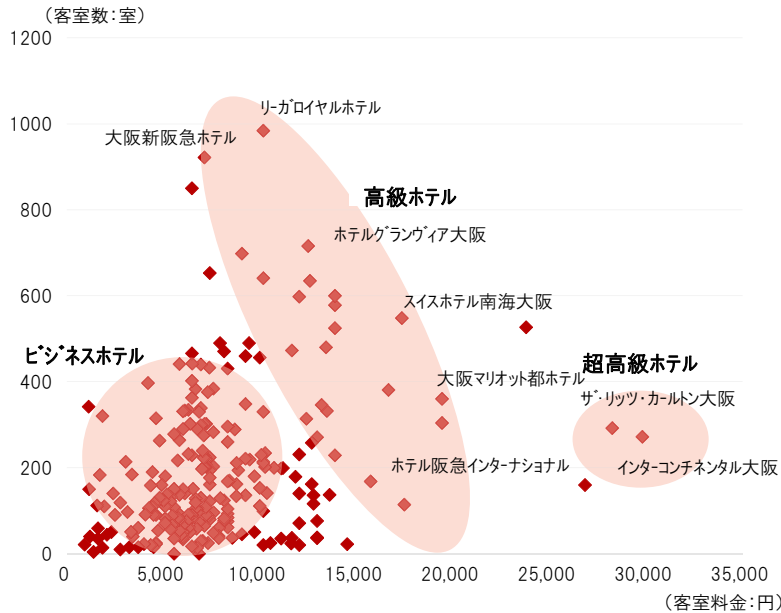


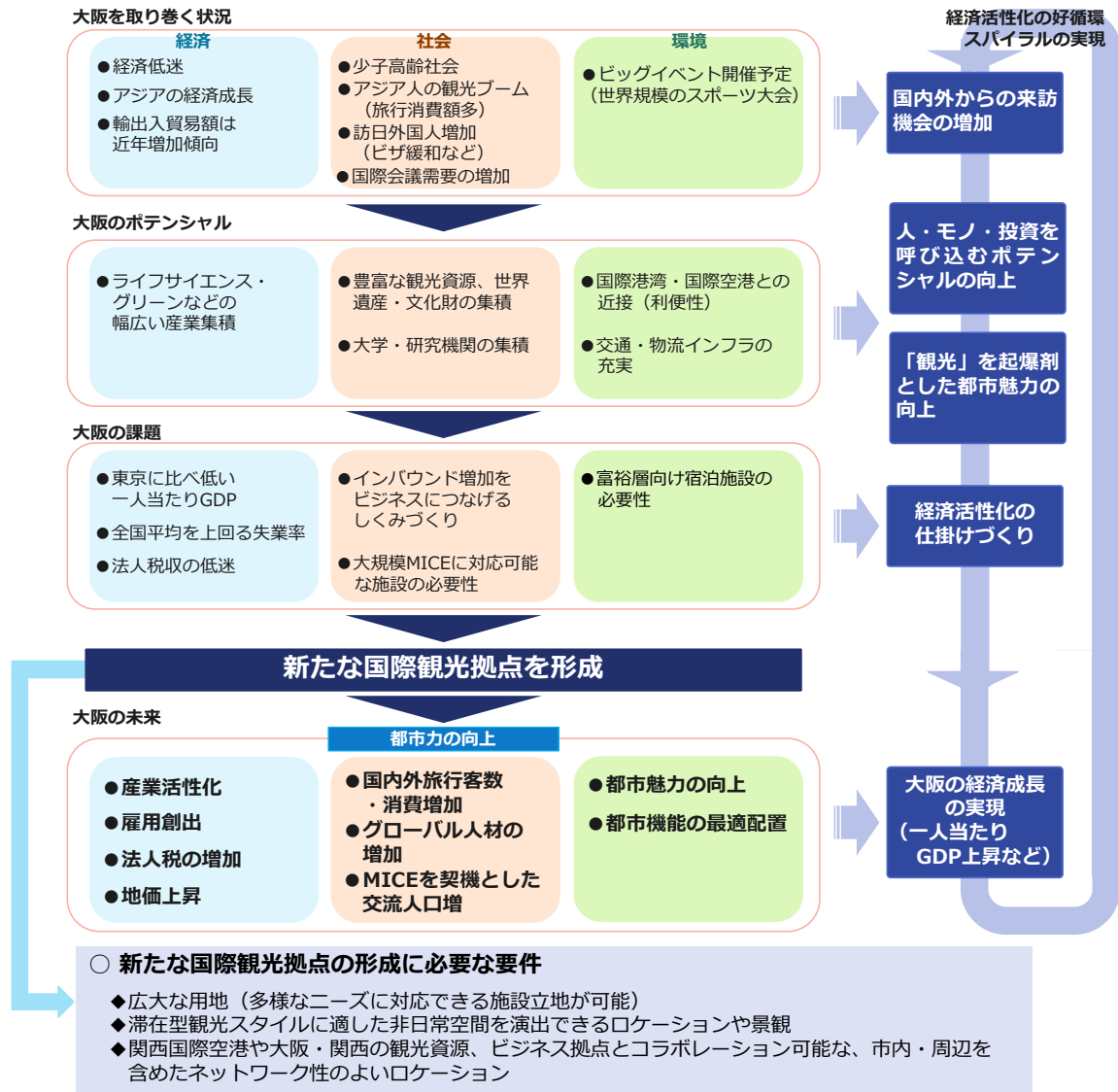
図 大阪市の宿泊施設客室数と料金分布の比較<sup>23</sup>

<sup>22</sup> 出典：内閣官房 地域活性化統合事務局 都市再生の推進に係る有識者ボード MICE 施設機能向上ワーキンググループをもとに作成（一部修正）  
その他データと主要施設については、公式HP等をもとに作成

<sup>23</sup> 出典：㈱日本政策投資銀行 関西4都市宿泊施設業界調査をもとに作成

## 4. 取り組みの方向性

- ・ 低迷する経済の状況や将来的な人口減少に伴う国内需要の低下を阻止し需要を喚起するため、アジア各国・地域の活力を取り込むなど、国内外から人・モノ・投資を呼び込む大阪経済成長の起爆剤となる「新たな国際観光拠点」の形成を図る
- ・ 新たな国際観光拠点の形成により、大阪の都市力の向上を図り、大阪経済の活性化につなげる
- ・ ポテンシャルの高まりを強みに、持続的な経済成長、経済活性化の好循環スパイラルを実現する
- ・ 広大な用地確保等が可能な夢洲において、新たな国際観光拠点を形成する



### 【広大な用地を持つ夢洲】

- ・ 夢洲では現在も埋立が行われており、今後、広大な用地確保が可能。
- ・ 大阪港の西部に位置し、オーシャンフロント、瀬戸内海方向を望む景観など、非日常空間を体感できる立地。
- ・ 関西国際空港、臨海部や市内、周辺都市のみならず西日本各地とのネットワーク形成が可能な立地。

夢洲は、広大な用地の確保や非日常空間を創出できるロケーションなどの要件を備えており、新たな国際観光拠点の形成が可能である。